

科目区分	専門教育科目	科目名	介護実習4		科目コード	17F650	担当者	荒木 正平、植木 明子、 田川 千秋			
対象学生	介護福祉士コース1年生	学期区分	後期	単位数	2	卒業要件	必修				
						免許・資格要件	介護福祉士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
実習区分（Ⅱ）の実習開始となる段階である。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設において、個別ケアを行うために利用者の生活や個性を理解し、その課題を明確にするべく情報収集・アセスメントを行う。さらにこの段階では利用者ごとの介護計画の作成までを実施する。これまで得られた知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						1. 「尽心」 誠実な人柄と 人間力	2. 「創造」 高度な知性と 創造力	3. 「実践」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性 ・ 真摯性	② 多様性 ・ 協働性	③ 知識 ・ 技能	④ 思考 ・ 創造 ・ 判断 力	⑤ 主体 性 ・ 自立 性	⑥ 就業 力 ・ 貢献 力
1.	特別養護老人ホーム等、実習施設の役割を理解できる。										
2.	アセスメントに基づいた利用者の介護計画案の作成ができる。										
3.	チームの一員としての介護福祉士の役割と、自己研鑽の必要性を理解する。										
4.	夜間の介護および利用者の状況について理解できる。					◎	◎	○	◎	◎	○
5.	医療的ケアを受ける対象者像について理解する。										
授業方法						成績評価の方法と割合					
学外実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設のいずれか一つに、12日間の実習である）夜間介護についても、実習4で実施する						受講態度（40%） 提出物（20%） 実習先の評価（20%） 実習の記録（20%）					
準備学修						課題等への対応					
1) 実習の意義・目的を理解する。（授業前後の学習としては30～40分程度） 2) 実習施設の概要、主な業務など施設についての基礎知識を習得しておく。 3) 実習記録の方法について理解しておく。 4) 介護過程の方法について学習しておく。 5) 実習に必要な介護技術や利用者理解のための知識を習得しておく。 6) 福祉関係法規の理解 など						実習期間中の学習状況に応じて、巡回職員は個別での助言・相談対応等をこまめに実施する。					
授業計画											
<p>(1) 実習施設の概要を理解し、地域社会におけるその役割を学ぶ。</p> <p>(2) 情報収集を行い、対象利用者の全体像を把握する。</p> <p>(3) アセスメントの実施を受けて利用者の生活課題を明確にし、支援の優先順位を決定する。</p> <p>(4) 介護計画を立案する。 ・長期・短期目標を設定し、実行可能な具体的支援内容を計画する。</p> <p>(5) チームの一員（介護福祉士）としての立場を認識した行動について理解する。</p> <p>(6) 介護過程を展開するうえで必要な、技術と知識の根拠を理解する。 ・関連ある文献の検索を行う。 など</p> <p>(7) 施設における夜勤介護プログラムの全体像を把握する。 ・夜間の介護業務を理解する。 ・巡回時の留意点が理解する。 など</p> <p>(8) 喀痰吸引の実際を見学し、その必要性と留意点を学ぶ。</p>											
教科書・参考書						受講生へのメッセージ					
新・介護福祉士養成テキスト 「介護総合演習」中央法規出版						いよいよ介護過程の展開を本格的に開始していきます。ただし、これまでの関わりとまったく異なることをするわけではありません。声かけや状態観察など、利用者に寄り添い、一つひとつきちんと関わることが、情報の収集や分析においてもなにより求められます。					